

教養プロジェクト～1980年までの小説～

経済学科 2年 神谷昌吾

作品のあらすじと好きなところ

1 『[星の王子さま](#)』 (サン＝テグジュペリ)

砂漠に不時着した「ぼく」と小さな惑星からやってきた「王子さま」の物語。
友達のキツネに王子さまが自分の大切なバラの話をする場面。

2 『[変身](#)』 (カフカ)

朝目が覚めると、自分が虫になっていることに気付いた男とその家族の物語。
家族に異変を知らせるために、ベッドから出ようと虫になった男がもがく場面。

3 『[伊豆の踊子](#)』 (川端康成)

伊豆を旅行中に、踊り子の少女に恋をした青年の物語。
青年が偶然を装って、踊り子の少女一行に追いつこうと画策する場面。

4 『[オペラ座の怪人](#)』 (ガストン・ルルー)

オペラ座歌手クリスティーンを中心とした悲哀の物語。
なんといってもラストシーンがすばらしい。

5 『[こころ](#)』 (夏目漱石)

「先生」と「わたし」の交流を通して人間の葛藤が表現された作品。
先生の遺書の所々でみられる独特ないいまわし。

6 『[あしながおじさん](#)』 (ジーン・ウェブスター)

孤児のジュディと彼女を支援するあしながおじさんへあてた手紙形式の物語。
あしながおじさんの正体が発覚する場面。

7 『[蟹工船](#)』 (小林多喜二)

蟹工船で労働に従事する男たちの物語。
外国人との会話を通してプロレタリアートの思考に感化される場面。

8 『[ロリータ](#)』 (ウラジミール・ナボコク)

中年男性が昔の恋人の面影を残す12歳の少女に猟奇的な恋心を抱く物語。
主人公が12歳の少女に恋をしていることがいけないことだと客観的に分析する場面。

9 『[トム・ソーヤの冒険](#)』 (マーク・トウェン)

主人公トムが子供ならではのいくつも冒険を経験する物語。
子供たちがおかしい呪文や噂を本気で信じているところ。

10 『[異邦人](#)』 (カミュ)

人間性に難のある主人公が社会の理不尽に巻き込まれる物語。
自分の裁判中に主人公が他人事のように裁判を傍観している場面。

コメント

この機会がなければ読まない本をいろいろ読むことができた。著者によって作風が違うのは当然のことだが、時代や国によっても作風に大きな違いがあることを改めて認識できた。私は昔の文学作品は難解なものだと決めつけ、今まで避けることが多かった。しかし今回のプロジェクトで、本が出版された年にどんな思想や出来事があったかに注目して読むと理解がより一層深まり、読書の意欲も湧いてくることがわかった。今後は出版された時代が古いという基準だけで読む本を選別することはやめ、幅広く、多くの文学作品にふれていきたい。